

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000260		
法人名	有限会社 睦和福祉会		
事業所名	ライフサポート あさひ		
所在地	佐賀県佐賀市川副町大字鹿江1413-8		
自己評価作成日	平成25年3月19日	評価結果市町村受理日	平成25年7月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成25年4月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スプリンクラー設備は中部広域連合管内第1号であり、リビングと各居室には加湿空気清浄機を設置している。害虫駆除や衛生面でも専門業者(イーテック)にお願いし、定期的に点検が行われている。感染症の予防に対してインフルエンザやノロウイルスに効果のある消毒液がありテーブルや手すり、食事前の消毒に使用している。
また、入居者の状態に応じ簡単なリハビリを実施、他に歌を歌ったり、体を動かしたりとレクリエーションは毎日行っている。希望に応じ主治医、ご家族様同意のもと訪問によるマッサージを医療保険で安く受けることができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐賀市の南部に位置し、住宅地に囲まれた静かな環境の中にある事業所である。感染症の予防について、職員も含めて予防に努められており、発生はほとんどなく経過している。毎日、レクリエーションの担当を決めて、多彩なレクリエーションを行い、入居者も楽しみに参加されている。また、状態に応じた簡単なリハビリを主治医と確認しながら行い、身体機能が低下しないように取り組まれている。庭に季節の花が植えられて、季節が感じられるよう、リビングから見られるようになっている。また、リビング内も空気清浄器の設置や手作りの作品が飾られて、安心して過ごせる工夫がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	小ミーティングや全体のミーティングで理念に基づいた取り組みを行っていくよう話し合いを行っている。	理念をリビングに掲示し、目につくようにしている。ミーティング等で理念に基づいた支援ができるように話をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のネットワークに参加、毎月の勉強会に参加させてもらっている。	地域のネットワークに参加し、勉強会や情報交換行われている。区費の支払いもされ、回覧板も回ってくる。敬老会の誘いにはできるだけ参加できるように努めている。行事の時には地域のグループに出し物を依頼をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様のご家族には認知症の方に理解や支援の方法など一緒に考えているが、他の地域の人々には発信できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おたっしや本舗の方などをお呼びして行事に参加していただいたり、意見交換は行っている。しかし、いまだにご家族様の参加が出来ていない。	平成24年7月まで2ヶ月おきに開催されていたが、その後は企画してもメンバーが集まらず、開催できていない。民生委員や地域包括支援センターの参加があるが、家族が参加できていない状況である。地域の情報については会議で提案している。	家族会や夏まつりなどの行事に合わせた開催や、毎月発行のお便りに会議日程を掲載し、参加を呼び掛けるなど、参加者を増やす工夫と定期的な開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者様の部屋の空き状況や、その他の意見交換が行えており、協力関係が築けている。	地域包括支援センターからの問い合わせには随時対応しており、見学に来られた時には取組み等説明している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保の為、玄関やユニット間の施錠を行っているが、入居者様の要望に応じて行き来できるようにはしている。他、その時の状態に応じて、ご家族様への説明と同意のもと安全ベルトを使用している。	安全上、玄関とユニット間に施錠をしている。入居者が外に出たい様子がある時は職員が付き添い、散歩している。また、要望があれば鍵をはずし、ユニット間の行き来をしている。安全ベルト使用については、家族への説明と同意の元、使用している。	施錠については、施錠の弊害も踏まえ、時間帯や開錠の場所を決めるなど、施錠に頼らないケアの検討に期待したい。身体拘束についての経過記録作成し、定期的にモニタリングして、拘束解除に向けた取り組みに期待したい。また、ケアプランに拘束の軽減を目標などにあげる事で、職員の意識を高める事も期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の勉強会に虐待防止法について学ぶ機会を設けており、利用者様に対する虐待が見過ごされないように注意を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の勉強会で権利擁護に関する事も取り入れており理解を深める努力を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際に説明を十分に行い、十分に納得していただいた上で署名、捺印をしてもたっている。契約終了時にも納得の上で契約解除届けを書いてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会に1家族ずつ話しをする機会を設けその際に色々な意見などを聞いている。他、玄関に意見箱を設置している。	年に2回、家族会を開催し、食事やレクリエーションを一緒に楽しんでいる。1家族ずつ職員と話す時間を作り、ケアプランの説明や意見などを聞いている。意見についてはケアプランや運営に生かしている。玄関に意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来るだけ意見が出しやすくする為に、小グループでの話し合いを実施。その意見を全体の話し合いで発表するようにしている。	職員を2グループに分けて、2週間に1度、小ミーティングを開催し、意見や提案を言いやすくしている。全体ミーティングで発表し、運営やケアに生かしている。日常のケアの中でも管理者に職員からの意見が言いやすい雰囲気ができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務姿勢を把握した上で賞与に反映するようにしている。また、主婦の方が働きやすいように子供を連れてきても大丈夫なようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じ研修を受けられるような機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	経営が同じグループホーム職員との交流の場を設けてあり、お互いの業務に関して意見交換が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約時やサービスが開始する段階で利用者様が困っていることや要望が無いかを傾聴し把握していく努力はしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時のアセスメントでご家族様より要望や心配に思われていることはないか話しをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時に今後必要と思われるサービスを考え実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の昔の生活の知恵などを聴くこともあり大変、勉強になることがある。人生の上でのアドバイスをいただくこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状態に応じてご家族様と密に連絡を取り合い今後の方針に向けた相談を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からのご友人との手紙のやり取りの支援、電話を取り次ぐこともある。	地元からの入居者は友人が訪ねてこられるので、いつでも会ってもらっている。墓参りや行きつけの美容室、法事など、本人の希望があれば、家族に相談して連れて行ってもらったり、家族送迎が難しい場合は有料の送迎サービスを利用してもらい、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通して、なるべく孤立せず利用者同士が交流できるような状況を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始時や普段の生活の中で定期的なアセスメントを行い、希望や意向の把握に努めている。困難な場合もなるべく入居者様本位のサービスが行えるように考えている。	入居時に生活歴や好みなどを聞き、レクリエーションなどに生かしている。入居者に対して職員の担当者を決めている。定期的に小ミーティングを開催し、担当職員から入居者の状況や希望や意向を報告し、他職員からも意見を出してもらい、希望や意向を共有化している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居契約時に今までの生活環境や暮らし方について話を伺い、ご本人様の趣味や嗜好、サービス利用の経過について把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の担当職員をはじめ全職員が普段の生活状況を見ながら、利用者様のその時の状態や有する可能性について考え、会議の場や業務の中で把握する様、努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、全体会議での意見交換、主治医からの意見に基づき、現状に即した介護計画書を作成している。	担当職員とケアマネージャーとで共同アセスメントを行い、計画立案している。健康面については主治医から意見をもらい、定期的な小ミーティングでモニタリングを行い、計画の継続や変更を検討している。計画の評価を家族に説明し、家族からの意見は介護計画に取り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に、毎日のケアや気づいたことを記録してあり、職員間で申し送りを行っている。内容によっては介護計画に組み込んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の必要性があり、その際にご家族様の都合がつきにくい時は、有料ではあるが代わりに職員が付き添い受診してもらっている。また、入院中に必要な物品などを準備する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、実施されている川副ネットワークに職員が交代で出席しており地域資源の把握を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約締結時に今までのかかりつけ医療機関の受診を希望されるか否かを確認している。	今までのかかりつけ医療機関の受診を希望された場合は、家族送迎で診察継続されている。提携病院を希望された場合は、往診を受けている。体調不良時や緊急時はかかりつけ医へ連絡体制があり、適切な対応ができるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて非常勤の看護師と協力医療機関の看護師に相談し速やかに対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合は経過に伴い医療機関と連絡を取り合い状態に応じ話し合いを設けている。早期退院に向けて働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結時に重度化や終末期のあり方についてご家族様に説明し同意書をとっている。また、終末期となられた場合にはご家族様と医療機関、グループホーム職員が密に連絡を取り合い今後の事を話し合っている。	重度化や終末期について契約時に説明し、同意書をとっている。終末期や重度化した場合は、家族や医師と随時相談し、希望に応じて看取りも行っている。職員の中でも終末期や重度化への対応について共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊の指導の下、応急救護など事故発生時に備えた訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、災害時の避難訓練を実施している。	年に2回、避難訓練行われている。年1回は消防署も参加され、アドバイス等ももらっている。夜間想定避難訓練も実施されている。施設内にスプリンクラーも設置され、防災カーテンの使用など、ハード面も整備されている。消防署の消火訓練にも職員が参加しているが、地域との連携はとられていない。	消防団や近隣住民等との、地域の協力体制の構築が望まれる。また、地震など他災害を想定した対策や、地域の避難場所の確認や避難方法の検討等も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の自尊心を傷つけないようにサービス業らしい言葉遣いで言葉掛けを行っている。	全体のミーティング等で、職員に丁寧な言葉遣いを行うように話しをしており、また、現場での言葉づかいやプライバシーの配慮ができていない場合は、職員に対してその場で注意を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションは何を行いたいかや、献立作成の際や行事ごとで食べたい物のリクエストを聞いたりしている。入浴もその日に気分がのらなければ別の日にずらして入浴していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	だいたい1日の生活の流れはあるが起床時間、就寝時間、入浴時間など一人ひとりの希望に副って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月毎に外部から美容師の方に来ていただきカットやパーマ、カラーを行ったりと身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日の昼食の献立は入居者様の意見を聞きながら作成されている。入居者様ともやし根きりをしたりオニギリを丸めたりと一緒に調理を行っている。	日曜日の昼食や日常のおやつは家族から好みを聞いたり、普段の会話の中で希望を聞き、メニューを決めている。季節の行事や家族会の時は一緒にできる調理を企画している。食器洗いや片付けを入居者と一緒に行う事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握は勿論の事、水分摂取量も把握し普段より摂取量が少ない方には味を変えたりして摂取しやすいように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。自分で行える方は、なるべく見守りに対応している。また、2週間に1回はポリデント洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々にあったトイレ誘導を行っている。場合によってはオムツを使用しなくてもいいように自立に向けた支援を行っている。	排泄表を記載し、排泄パターンを把握してトイレに誘導している。夜間もいつもの時間に起きてこられない場合は、声かけて排泄を促している。排泄パターンの把握により、日中のおむつが少なくなってきた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多く入った食材とバランスの取れた料理を提供している。また、水分を多く取ってもらうように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に応じて入浴してもらっている。週に2、3回は入浴されている。	男性と女性に分けて週3回は入浴している。入浴日以外でも入浴は可能である。入浴時間は、できるだけ希望に応じた時間に入浴し、ゆっくり入りたい方の希望にも応じている。拒否がある方も声かけを工夫し、うまくいった誘導方法などを職員で共有し、入ってもらえるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様にに応じて、居室で休んでいただいている。ソファーに座って過ごされる方もおられる。昼夜逆転傾向にならないよう運動も促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様1人ひとりに内服に関する説明書がありファイリングしたものをスタッフが見て把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケが好きな方、編み物が好きな方それぞれ楽しみながら気分転換してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には行えていないが、花見の時期には外出している。外部の送迎サービスを利用し外出されている方もおられる。	花見の時期にバスハイクを行っている。外に出たい様子の入居者は職員が付き添い散歩などに出ている。墓参りや法事などを希望される場合は家族に連絡し、家族対応が難しい場合は、有料の送迎サービスを利用している。しかし、外出の頻度は少ない。	散歩ができない方でも、外気浴を行なうなど、日常の中でできることから、外出につなげる支援を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、外出される方には希望に応じお金を所持、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご家族様との電話の取次ぎや郵便物を代わりに出しに行ったりと支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節感のある飾りや絵などを掲示している。	リビングは光が取り込めるように天窓がついている。家族会で作成した飾りが各居室の入り口や廊下に貼られている。リビングに空気清浄器が設置され、絵手紙や似顔絵が貼られて、気持ち良く過ごされるように工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓に集まり話ができるようには促している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、その他の物品は今まで自宅で使用されていた愛着のあるものを持ち込まれており、居心地の良い居住空間となっている。	希望がある物は持ち込んでもらい、入居者それぞれの居室が作れるように工夫されている。自宅で使っていた食器類も持ち込まれて、食事の時に使用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様がご自分の居室と分かるように表札を設けたり、転倒防止の為、センサーを利用し安全に過ごしていただけるようにしている。		